2015国勢調査の確報値が公表される、町商工会がプレミアム付き商品券を発売し、既に完売

新得町の総人口6288人 前回調査時より365人の減少

2015国勢調査の確報値が公表される

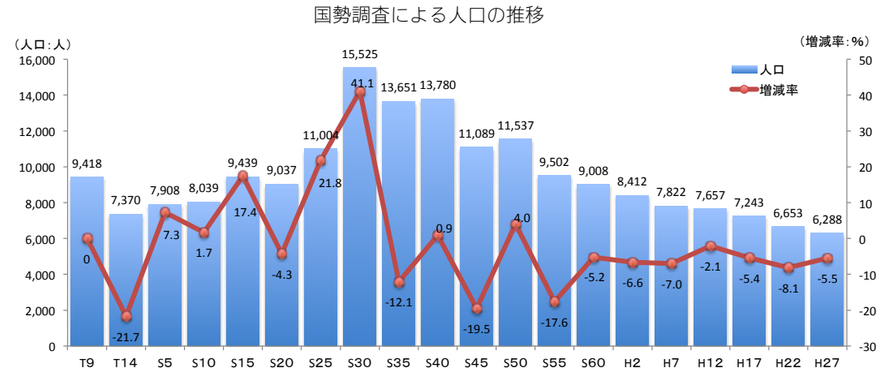
平成27年10月1日現在で行われた国勢調査の確報値が公表されました。新得町の総人口は6288人と、前回の調査が行われた平成22年と比べ365人の減少となり、減少率はマイナス5・5％となりました。人口減少に歯止めがかからないという結果になりましたが、減少率で比較すると、平成17年から平成22年までが8・1％で、平成22年から平成27年までが5・5％となっており、人口減少のスピードがやや抑制されました。

新得町の人口は下記グラフからわかるように、国勢調査が始まった大正9年から昭和30年にかけては増加しましたが、この年をピークに人口減少が始まり、昭和50年からは増加することなく減少の一途をたどっています。人口減少の要因とされるのが、国鉄の分割民営化、営林署の統廃合等による労働者やその家族の減少が大きく起因し、それらに関連する工業人口の減少、離農による農業人口の減少、ダムなどの大型公共事業の終了、そして若年層の町外流出といった社会要因が大きいと言えます。

一方、近年においては自然要因も大きく関係しています。今回の調査では15歳未満の年少人口が664人に対し、65歳以上の老年人口が2183人と、年少人口の約3倍となりました。また、15歳から64歳の生産年齢人口は3441人であり、典型的な少子高齢化を描いています。この少子高齢化については、平成22年調査と平成27年調査を比較すると、年少人口の29人減少に対し、老年人口が71人増加し、この5年間でも少子高齢化が進行している結果となりました。

深刻化する人口減少ですが、北海道全体に目を向けても、その進行は著しいといえます。平成22年調査からの人口減少率10％以上の地域は渡島地方、檜山地方、後志地方の沿岸部や留萌地方、また空知地方東部に集中してみられます。一方、道内で人口が増加しているのが、札幌市、恵庭市、千歳市、帯広市、幕別町、東川町、東神楽町の7市町となりました。十勝地方に焦点を当てると、人口が増加した帯広市と幕別町に加え、その周辺7町村で5％未満の減少、新得町を含む8町村で5～10％の減少と地方よりも減少率が低い結果となりました。

国勢調査による人口の推移



総額1億1千万円 町商工会がプレミアム付き商品券を発売し、すでに完売

町商工会（湯浅悟史会長）は10月20日、10％のプレミアム付き商品券を発売。総額は、プレミアム分を含めて1億1千万円で、1セット1万円の1万セットを用意。

9時の販売開始前から商工会の入り口前には、いち早く商品券を手に入れようと列ができており、10月28日（金）に完売となりました。

商品券は町内の商工会会員全店で使用できるほか、JA新得町の各店舗・事業所でも使用できます。なお、商品券の使用期限は、平成28年10月20日（木）～平成29年3月15日（水）までとなっています。

「輝一夜（かがやきひとよ）」新得花火大会　ほか

災害になんて負けてられない！ 夜空が輝いた一夜 百花繚乱の4500発

「輝一夜（かがやきひとよ）」新得花火大会

台風災害の影響により9月24日から順延された「輝一夜」新得花火大会（実行委員会主催）が10月10日、佐幌川公園を打ち上げ場所として開催されました。時折冷たい風が吹く肌寒い気温でしたが、観覧場所の町営球場には約2300人の観客が訪れ、晩秋の夜空を彩る華やかな花火に歓声をあげていました。打ち上げ花火は、昨年よりも300発多い4500発で、西十勝最大規模の花火が打ち上げられました。スクリーンに映し出された町内の子供らがカウントダウンを開始し、打ち上げがスタート。3部構成のプログラムで約1時間にわたり花火が打ち上げられ、グランドフィナーレの大スターマインでは、華々しく花火が打ち上がり観衆を魅了しました。会場には生ビールやお好み焼き、焼きそばなどが出店し賑わっていたほか、打ち上げ前にはマジックショーや町内の幼稚園、保育所（園）、小・中学生の子供たちの顔写真が会場の特設スクリーンに映し出されるなどの催しが行われました。

プロレスラーが新得に元気を注入！

大日本プロレスのレスラーらが無料炊き出し

7月に新得町で試合を行った大日本プロレスのレスラーが10月8日、JR新得駅前で町民有志約20人とともに無料炊き出しを行いました。試合で各地を周っている際に集めた義援金を同団体を代表しアブドーラ・小林選手が浜田正利町長に手渡したほか、新得小学校にマフラータオル300枚を寄贈しました。無料炊き出しでは、ラーメンや焼肉丼、フランクフルトなどが振舞われ、多くの町民が列を作っていました。また、プロレスラーとの撮影会やレスラー同士が一勝負するパフォーマンスもあり、駅前は大いに賑わいを見せていました。

プロレスラー同士、一勝負する場面も

犯罪など起きにくいまちづくりを目指す

町が新得警察署と「防犯カメラ運用」で協定締結

町と新得警察署は10月19日、役場で「防犯カメラ運用に関する協定」を浜田正利町長と髙田重栄署長が出席し調印式が行われました。協定の締結により、町で今年設置した防犯カメラの情報を犯罪や交通事故などが発生した際に、警察からの要請により情報提供をし、事件・事故の早期解決が図られることが期待されます。

浜田町長は「犯罪や事故の抑止力を含めて安心感が高まる」と話し、髙田署長は「カメラが設置され町民の安心安全に有用だが、できるだけ使うことがないように、パトロールにも力を入れていく」と話していました。

協定書を手にする髙田署長（写真左）と浜田町長